

栗原市病院事業

第二次経営健全化計画

平成25年1月

栗原市医療局

はじめに

国における社会保障改革は、「社会保障・税一体改革大綱」に基づき、急性期をはじめとする医療機能の強化、病院・病床機能の役割分担・連携の推進、在宅医療の充実等を内容とする医療提供体制の制度改革に取り組むこととされるなど、地域医療を取り巻く環境が変化しております。

栗原市は少子高齢化が進み、平成22年の国勢調査人口は74,932人と平成17年の国勢調査時の人口から5,316人減少し、年齢別人口構成比では、65歳以上の高齢者人口構成比が32.5%となり、15歳未満の年少人口の構成比は11.2%となっています。

栗原市病院事業は、平成19年11月に「栗原市病院事業経営健全化計画」を策定するとともに、平成20年4月に経営形態を地方公営企業法の全部適用に移行し、新たに設置した病院事業管理者の強力なリーダーシップにより職員の意識改革を図ることで組織も活性化し、併せて病院事業の経営改善に取り組んできました。

しかしながら、医師や看護師をはじめとする医療スタッフの不足や、開業医院の閉院及び無床化など地域の医療環境も大きく変化し、ますます市立病院の役割が高まってきております。

市立病院が地域医療機関として市民に質の高い安全で安心な医療を安定的に提供するという使命を果たす必要があることから、引き続き病院事業管理者のもとに病院事業の改善を推進するため「栗原市病院事業第二次経営健全化計画」を策定するものであります。

目 次

- 第1章 これまでの経営健全化への取り組み状況と成果・・・1ページ
 - 1 これまでの取り組み
 - (1) 経営改善への取り組み
 - (2) 医療機能の充実・強化
 - (3) 医師招へいと看護師確保の取り組み
 - 2 経営健全化の成果

- 第2章 第二次経営健全化計画の必要性・・・・・・・・・・・・・・6ページ
 - 1 計画策定の背景
 - 2 第二次経営健全化計画策定の必要性

- 第3章 計画の基本方針・・・・・・・・・・・・・・8ページ
 - 1 計画の位置づけ
 - 2 計画期間
 - 3 計画の目標

- 第4章 市立病院の果たす役割・・・・・・・・・・・・・・9ページ
 - 1 栗原中央病院
 - 2 若柳病院
 - 3 栗駒病院

- 第5章 事業計画・・・・・・・・・・・・・・13ページ
 - 1 収支計画
 - (1) 栗原中央病院
 - (2) 若柳病院
 - (3) 栗駒病院
 - (4) 病院事業全体
 - 2 経営指標
 - (1) 栗原中央病院
 - (2) 若柳病院
 - (3) 栗駒病院
 - 3 目標達成に向けた具体的な取り組み
 - (1) 栗原中央病院
 - (2) 若柳病院
 - (3) 栗駒病院
 - (4) 病院事業全体

4 定員管理と給与の適正化

- (1) 定員管理
- (2) 給与の適正化

第6章 再編・ネットワーク化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24ページ

- 1 第6次宮城県地域医療計画策定による再編
- 2 医療情報共有システムの構築

第7章 経営形態の継続・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25ページ

第8章 計画目標の点検・評価・公表・・・・・・・・・・・・・・・・ 26ページ

- 1 点検・評価
- 2 公表

資料編

- 一般会計負担の考え方
- 人口等の推移
- 栗原市の疾病構造
- 市立病院及び診療所の概要
- 用語

第1章 これまでの経営健全化への取り組み状況と成果

栗原市は平成17年4月に旧栗原郡の9町1村が合併し、3病院5診療所を運営することになりました。

合併当初から中核病院である栗原中央病院の累積赤字と、老朽化した栗駒病院の建設が計画されていたことから、経営の健全化に取り組むべく、平成19年11月に平成19年度から5か年を計画期間とした「栗原市病院事業経営健全化計画」を策定し、経営健全化に向けた様々な取り組みを推進してきました。

1 これまでの取り組み

(1) 経営改善への取り組み

- 平成19年12月 管理職の勤務評定実施
- 平成20年 4月 地方公営企業法全部適用
病院事業管理者の設置
薬品等の共同購入
- 平成20年 7月 診療材料等在庫管理の見直し

(2) 医療機能の充実・強化

- 平成19年 4月 栗原中央病院開放型病院共同指導料の施設基準取得・登録
医制度の導入
- 平成19年 4月 若柳病院に「居宅介護支援室」設置
- 平成20年 4月 栗原中央病院の機能評価Ver5.0の認定
- 平成21年 4月 栗原中央病院が基幹型臨床研修病院の指定
栗原中央病院の病床数を300床に増床
栗駒病院移転改築 病床数75床
栗駒病院改築に伴う標榜診療科の見直し
- 平成22年 3月 栗原中央病院 7対1看護師配置基準取得
栗原中央病院 第2MRI棟の増築
- 平成23年 4月 栗原中央病院 DPC対象病院へ移行
- 平成23年 4月 栗原中央病院 リハビリテーション訓練室の増築
- 平成24年 2月 栗原中央病院 電子カルテシステムの導入

(3) 医師招へいと看護師確保の取り組み

- 平成18年 4月 医学生修学一時金貸付制度の創設
- 平成20年11月 院内保育所設置
- 平成22年 4月 看護学生修学資金貸付制度の創設
- 平成24年 3月 医師住宅の整備

2 経営健全化の成果

経営健全化の取り組みにより、病院事業の経営は計画策定前に比べ大幅に改善することができました。計画期間中、減価償却費を除いた損益では、計画初年度の平成19年度は栗原中央病院が、平成20年度は新病院建設中であつた栗駒病院がそれぞれ赤字とはなりましたが、その他の年度については3病院とも黒字となりました。

その中でも、平成22年度の病院事業全体の経常収支比率は計画値を0.5%上回ることになり、99.9%まで改善することができました。経営健全化計画に基づき、地方公営企業法全部適用、医師招へいや臨床研修医の受け入れなどを主とした経営改善への取り組みの成果であると考えます。

しかしながら、平成23年度においては、東日本大震災等の影響により患者数が減少し、また、共済費や退職手当の負担率が上昇したことにより人件費が増加し、病院事業全体で2億3千514万8千円の純損失を計上することとなり、今後も一層の経営改善が求められる結果となりました。

過疎化、少子高齢化の進行する栗原地域において安定した経営を維持するためには、医師招へいを主とした医療スタッフの充実、医療機能の向上、病床利用率の増加などの課題を今後どのように克服していくかが求められています。特に、若柳病院、栗駒病院における地域医療を担う医師招へいは喫緊の課題です。

さらには、経営には負担となるものの、公的病院の役割として、救急医療体制の充実や産科、小児科等の専門医の招へいなどの課題にも対応していくことが必要です。

なお、病院事業全体の主な経営指標及び市立3病院の収支計画及び決算、主な経営指標の推移は次のとおりです。

○栗原市病院事業（市立3病院全体）の主な経営指標の推移 (単位：%)

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
経常収支比率	93.6	90.6	98.4	98.2	98.8	97.3	99.4	99.9	100.0	96.8
病床利用率	78.5	76.3	82.4	75.0	84.6	74.7	84.6	77.6	84.6	73.6
職員給与費比率	53.7	54.5	52.5	55.1	51.8	54.6	52.1	54.2	52.3	56.2

第1章 これまでの経営健全化への取り組み状況と成果

○栗原中央病院の収支計画及び決算（収益的収入支出）

（単位：千円）

区分	年度	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益		3,294,772	3,070,146	3,462,717	3,183,124	3,546,886	3,231,096
医業外収益		425,628	434,742	419,717	680,957	413,944	654,094
特別利益		0	0	0	1,463	0	0
合計		3,720,400	3,504,888	3,882,434	3,865,544	3,960,830	3,885,190
医業費用		3,956,196	3,965,365	3,769,142	3,715,930	3,721,937	3,802,180
医業外費用		269,585	266,897	263,387	265,035	256,516	271,071
特別損失		663	783	663	2,473	663	23,827
合計		4,226,444	4,233,045	4,033,192	3,983,438	3,979,116	4,097,078
当年度経常損益		▲505,381	▲727,374	▲150,095	▲116,884	▲17,623	▲188,061
当年度純損益		▲506,044	▲728,157	▲150,758	▲117,894	▲18,286	▲211,888
（減価償却費を除いた損益）		(9,329)	(▲213,726)	(209,271)	(239,955)	(285,129)	(97,739)
累積欠損金		▲4,450,565	▲4,672,678	▲4,601,323	▲4,790,572	▲4,619,609	▲5,002,460

区分	年度	平成22年度		平成23年度		平成23年度－平成19年度比較	
		計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益		3,546,886	3,632,174	3,546,886	3,653,186	252,114	583,040
医業外収益		408,004	692,160	401,940	673,411	▲23,688	238,669
特別利益		0	315	0	1,077	0	1,077
合計		3,954,890	4,324,649	3,948,826	4,327,674	228,426	822,786
医業費用		3,705,925	4,075,445	3,693,628	4,247,100	▲262,568	281,735
医業外費用		249,410	263,678	242,156	283,723	▲27,429	16,826
特別損失		663	1,006	663	7,839	0	7,056
合計		3,955,998	4,340,129	3,936,447	4,538,662	▲289,997	305,617
当年度経常損益		▲445	▲14,789	13,042	▲204,226	518,423	523,148
当年度純損益		▲1,108	▲15,480	12,379	▲210,988	518,423	517,169
（減価償却費を除いた損益）		(277,848)	(297,461)	(270,550)	(84,879)	(261,221)	(298,605)
累積欠損金		▲4,620,717	▲5,017,940	▲4,608,338	▲5,228,928	▲157,773	▲556,250

○栗原中央病院の主な経営指標の推移

（単位：％）

区分	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
経常収支比率	88.0	82.8	96.3	97.1	99.6	95.4	100.0	99.7	100.3	95.5
病床利用率	72.6	69.4	79.3	71.4	80.0	65.7	80.0	69.7	80.0	66.8
職員給与費比率	53.7	55.9	51.3	54.5	50.3	55.2	50.5	52.9	50.7	55.2

第1章 これまでの経営健全化への取り組み状況と成果

○若柳病院の収支計画及び決算（収益的収入支出）

（単位：千円）

区分	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	1,681,622	1,669,210	1,678,580	1,663,392	1,678,580	1,714,251
医業外収益	190,560	190,908	188,869	192,852	188,188	182,795
特別利益	0	0	0	73	0	0
合計	1,872,182	1,860,118	1,867,449	1,856,317	1,866,768	1,897,046
医業費用	1,781,478	1,717,025	1,776,858	1,724,217	1,777,108	1,750,149
医業外費用	112,065	111,455	111,112	109,585	110,091	111,087
特別損失	481	66,538	481	2,612	481	952
合計	1,894,024	1,895,018	1,888,451	1,836,414	1,887,680	1,862,188
当年度経常損益	▲ 21,361	31,638	▲ 20,521	22,442	▲ 20,431	35,810
当年度純損益	▲ 21,842	▲ 34,900	▲ 21,002	19,903	▲ 20,912	34,858
（減価償却費を除いた損益）	(160,295)	(146,456)	(154,032)	(194,312)	(150,436)	(203,978)
累積欠損金	1,435	▲ 11,623	▲ 19,567	8,280	▲ 40,479	43,138

区分	平成22年度		平成23年度		平成23年度－平成19年度比較	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	1,678,580	1,565,487	1,678,580	1,482,983	▲ 3,042	▲ 186,227
医業外収益	187,320	207,980	185,838	176,352	▲ 4,722	▲ 14,556
特別利益	0	1,990	0	1,661	0	1,661
合計	1,865,900	1,775,457	1,864,418	1,660,996	▲ 7,764	▲ 199,122
医業費用	1,747,928	1,660,867	1,716,574	1,604,925	▲ 64,904	▲ 112,100
医業外費用	108,790	107,398	106,566	105,363	▲ 5,499	▲ 6,092
特別損失	481	2,855	481	5,294	0	▲ 61,244
合計	1,857,199	1,771,120	1,823,621	1,715,582	▲ 70,403	▲ 179,436
当年度経常損益	9,182	5,202	41,278	▲ 50,953	62,639	▲ 82,591
当年度純損益	8,701	4,337	40,797	▲ 54,586	62,639	▲ 19,686
（減価償却費を除いた損益）	(146,913)	(143,543)	(143,184)	(48,267)	(▲17,111)	(▲98,189)
累積欠損金	▲ 31,778	47,475	9,019	▲ 7,111	7,584	4,512

○若柳病院の主な経営指標の推移

（単位：％）

区分	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
経常収支比率	98.9	101.7	98.9	101.2	98.9	101.9	100.5	100.3	102.3	97.0
病床利用率	92.8	91.7	92.5	91.6	92.5	93.4	92.5	90.9	92.5	82.6
職員給与費比率	50.6	48.6	50.8	49.6	51.0	48.1	51.2	51.7	51.5	55.9

第1章 これまでの経営健全化への取り組み状況と成果

○栗駒病院の収支計画及び決算（収益的収入支出）

（単位：千円）

区分	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	843,462	823,741	841,995	743,322	839,177	753,638
医業外収益	143,509	142,479	149,476	146,216	160,363	167,572
特別利益	0	0	0	2,820	0	0
合計	986,971	966,220	991,471	892,358	999,540	921,210
医業費用	900,041	909,973	903,640	896,646	991,801	919,341
医業外費用	13,673	13,938	25,654	22,175	52,483	36,528
特別損失	449	3,399	449	3,630	449	19,858
合計	914,163	927,310	929,743	922,451	1,044,733	975,727
当年度経常損益	73,257	42,309	62,177	▲29,283	▲44,744	▲34,659
当年度純損益	72,808	38,910	61,728	▲30,093	▲45,193	▲54,517
（減価償却費を除いた損益）	(98,001)	(63,084)	(85,804)	(▲9,220)	(58,318)	(19,304)
累積欠損金	44,625	10,727	106,353	▲19,366	61,160	▲73,883

区分	平成22年度		平成23年度		平成23年度－平成19年度比較	
	計画額	決算額	計画額	決算額	計画額	決算額
医業収益	839,177	776,251	839,177	819,776	▲4,285	▲3,965
医業外収益	160,165	177,906	159,612	171,675	16,103	29,196
特別利益	0	656	0	10,019	0	10,019
合計	999,342	954,813	998,789	1,001,470	11,818	35,250
医業費用	995,088	913,458	1,000,084	913,658	100,043	3,685
医業外費用	52,086	37,848	50,980	37,694	37,307	23,756
特別損失	449	713	449	19,692	0	16,293
合計	1,047,623	952,019	1,051,513	971,044	137,350	43,734
当年度経常損益	▲47,832	2,851	▲52,275	40,099	▲125,532	▲2,210
当年度純損益	▲48,281	2,794	▲52,724	30,426	▲125,532	▲8,484
（減価償却費を除いた損益）	(56,787)	(75,658)	(54,963)	(102,573)	(▲43,038)	(39,489)
累積欠損金	12,879	▲71,089	▲39,845	▲40,663	▲84,470	▲51,390

○栗駒病院の主な経営指標の推移

（単位：％）

区分	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
経常収支比率	108.0	104.6	106.7	96.8	95.7	96.4	95.4	100.3	95.0	104.2
病床利用率	79.6	77.7	79.4	65.5	90.7	80.4	90.7	87.7	90.7	86.2
職員給与費比率	60.0	61.2	60.5	69.8	60.0	66.6	60.2	65.3	60.5	61.2

第2章 第二次経営健全化計画の必要性

1 計画策定の背景

自治体病院は、地域における中核的医療機関として、地域医療の確保や住民福祉の向上を目的として、民間医療機関では対応しがたい医療を担っていますが、常勤医師の招へいや看護師等医療スタッフの確保が難しい状況にあり、医療を提供する体制を維持することが極めて厳しい状況にあります。また、平成21年4月の「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の全面施行により、地方公共団体は公営企業経営の健全化等に、今まで以上の取り組みが求められております。

併せて、消費税の増額など社会保障と税の一体改革法が成立したことから、経営に視点を置いた病院運営が必要となります。

市民にとって住みよい地域であるためには、これからも市立病院が地域の中核的医療機関として存続することが大切であると考えます。

① 医師招へいをはじめとする医療スタッフの確保

近年の医師不足は、診療科の休止や患者数の減少へつながり、病院経営を急速に悪化させる大きな要因となっています。また、看護師等についても、その確保が非常に難しく、地域医療は危機的な状況となっています。このような中で、市立病院がその役割を果たすためには、医師の招へいと看護師等医療スタッフの確保が喫緊の課題であり、関連大学や看護師養成学校への働きかけや、医学生修学資金・看護学生修学資金貸付制度の活用などにより、医療スタッフの確保に一層努めていく必要があります。

また、医療スタッフの定着化を図るためには、外部研修への助成や、宿舎、院内保育所等のアメニティーの充実により、働きやすい職場づくりが重要であると考えます。

② 病院経営の現状と課題

栗原市病院事業の経営状況は、これまでの経営健全化の取り組みにより、計画策定前の経営状況に比べ大幅に改善することができました。現金支出を伴わない減価償却費を除いた損益では黒字とはなっていますが、病院事業全体で毎年度純損失を計上しており、これからもなお一層の経営改善が求められています。

今後も、地域において必要な医療を提供していくためには、受入患者の増加や診療単価の増額、診療報酬請求の適正化などにより収入の確保を図るとともに、材料費、委託料等の縮減などにより経費の抑制を図り、より一層の経営の効率化を推進する必要があります。

③安全・安心な医療の提供

市立病院は、患者が治療の開始から終了まで一貫した切れ目の無い医療を受けることができるように、地域の医療機関との連携を強化する必要があります。

さらに、信頼できる医療を提供するために、患者のニーズや医療現場の実態を踏まえ、医療の質の向上を図り、引き続き取り組む必要があります。

2 第二次経営健全化計画策定の必要性

自治体病院を取り巻く厳しい状況の中で、栗原市病院事業として地域住民に良質な医療を安定的に提供していくために、引き続き経営改善に取り組んでいく必要があります。「栗原市病院事業第二次経営健全化計画」を策定することといたしました。

第3章 計画の基本方針

1 計画の位置づけ

本計画は、平成19年に策定した「栗原市病院事業経営健全化計画」の考え方を継承し、国の「公立病院改革ガイドライン」において策定が求められた「公立病院改革プラン」として位置付けるものであります。また、「栗原市総合計画後期基本計画」及び「第2次栗原市行政改革大綱」との整合性を図りながら、引き続き病院事業の経営改善に取り組んでいきます。

2 計画期間

平成24年4月1日から平成28年3月31日までの4か年とします。

3 計画の目標

市民から信頼される公的病院として、安全で安心できる医療及び質の高い医療を効率的・継続的に提供し、市立病院として存続するため経営の健全化を推進します。

○各病院の経営状況を勘案しながら、計画期間内の単年度経常収支の黒字化を目指します。

○医師の招へいや看護師、薬剤師等医療スタッフの確保に努め、各病院の医療体制の充実を図ります。

○職員の能力開発のための研修プログラムの充実や職員のスキル向上のための研修参加により、人材育成の推進を図ります。

○看護師にあっては卒後研修体制を確立し、質の高い看護を目指しながら、離職防止のための働きやすい職場づくりを推進します。

○地域のための医療を推進し、地域に根差す人材の育成を図ります。

○市立病院と医院、診療所などの身近な医療機関との連携、協力体制の強化を図るとともに機能分担を一層進めます。

○診療の効率化を図るため、市立病院と市立診療所間の患者情報のネットワーク化を検討します。

○消費税増税や町村合併の経過措置による普通交付税の減額を見据えた、経営基盤安定のための対策を検討します。

第4章 市立病院の果たす役割

市立3病院は、地域に良質な医療を提供するため、各病院の機能分化を推進し、かかりつけ医との連携を強化します。さらに、休日、夜間の救急診療体制を充実させることなど、地域の課題にも対応してまいります。

また、各種健康診断や予防活動を行い、市民の健康の維持や疾患の予防・早期発見に努め、市立病院としての役割を果たしてまいります。

災害時には、東日本大震災の経験を生かし、地域の災害医療を担う拠点病院としての役割を担いながら、他地域の医療支援についても状況に応じた対応を行います。

1 栗原中央病院

栗原中央病院は救急医療や高度専門医療などの急性期医療において、栗原市で中心的役割を果たせるように努めております。

今後、地域の高齢化に伴い医療ニーズも変化していくと考えられますので、そのことに対応できる診療科の拡充や専門性を持った看護師など、医療スタッフの配置を計画してまいります。

同時に、基幹型臨床研修指定病院として、初期臨床研修医を迎え入れています。さらに研修機能を高め、後期研修医を受け入れ、地域医療に資する総合医や専門医を目指すことができる環境を整備してまいります。

一方で、災害拠点病院の機能をさらに充実させるためにDMATを始めとして緊急事態への備えを進めており、より信頼される病院を目指します。

○栗原中央病院の概況

平成24年4月1日現在

診療科目 (14診療科)	内科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科 小児科、皮膚科、麻酔科、精神科、泌尿器科、放射線科 リハビリテーション科、病理診断科
病床数	300床（一般病床 260床、療養病床 40床）
1日平均入院患者数	200.4人（平成23年度実績）
1日平均外来患者数	419.0人（平成23年度実績）
職員数	医師28名、看護師161名、医療技術員38名 事務職員13名

○紹介率・逆紹介率の推移

単位：人

区分	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
紹介率	%	30.2	35.4	32.9	39.6	45.5
逆紹介率	%	20.7	19.5	20.5	21.5	31.5
紹介件数	件	4,801	5,204	4,861	5,799	6,035
逆紹介件数	件	3,055	2,798	3,081	3,210	4,251

○救急患者数の推移

単位：人

区 分		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
来院方法	救急車	1,332	1,254	1,292	1,517	1,730
	その他	3,504	3,365	2,704	2,747	2,421
	合 計	4,836	4,619	3,996	4,264	4,151
来院時間	時間内	391	377	426	487	557
	時間外	4,445	4,242	3,570	3,777	3,594
	合 計	4,836	4,619	3,996	4,264	4,151
1日平均患者数		13.2	12.6	10.9	11.7	11.3

○健康診断等受診者数の推移

単位：人

区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
妊婦・乳児健診	137	175	162	151	148
職場・団体検診	2,646	2,787	2,468	2,564	2,421
その他健診	372	352	335	302	516
予 防 接 種	1,542	2,089	3,444	2,135	2,181
合 計	4,697	5,403	6,409	5,152	5,266

2 若柳病院

「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、また、在宅医療・訪問看護・介護支援の拠点として、市内一次医療機関や近隣医療機関のほか、介護事業者や老人保健施設との連携を図り、初期診療はもとより、一次救急医療も担います。

○若柳病院の概況

平成24年4月1日現在

診療科目 (6診療科)	内科、外科、皮膚科、整形外科、形成外科 リハビリテーション科
病床数	120床(一般病床90床、療養病床30床)
1日平均入院患者数	99.1人(平成23年度実績)
1日平均外来患者数	203.7人(平成23年度実績)
職員数	医師5名、看護師68名、医療技術員18名 事務職員6名

○紹介率・逆紹介率の推移

単位：人

区分	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
紹介率	%	13.6	27.2	32.2	32.8	34.5
逆紹介率	%	25.5	32.7	36.9	49.7	44.9
紹介件数	件	115	512	558	503	556
逆紹介件数	件	923	990	992	1,186	1,024

○救急患者数の推移

単位：人

区分		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
来院方法	救急車	364	402	430	398	351
	その他	2,135	2,150	2,059	1,820	1,531
	合計	2,499	2,552	2,489	2,218	1,882
来院時間	時間内	155	222	266	213	183
	時間外	2,344	2,330	2,223	2,005	1,699
	合計	2,499	2,552	2,489	2,218	1,882
1日平均患者数		6.8	7.0	6.8	6.1	5.1

○健康診断等受診者数の推移

単位：人

区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
職場・団体検診	333	283	334	196	316
その他健診	139	74	72	70	46
予防接種	1,119	1,161	1,412	1,002	1,188
合計	1,591	1,518	1,818	1,268	1,550

3 栗駒病院

地域住民の生命の尊重と個人の尊厳を重視した「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、近隣の医療機関・保健福祉施設等との連携と機能分担を図り、常に知識と技術の向上に努め、医療水準の進歩・発展に速やかに対応した医療を地域住民に提供します。

○栗駒病院の概況

平成24年4月1日現在

診療科目(5診療科)	内科、外科、整形外科、泌尿器科、眼科
病床数	75床(一般病床45床、療養病床30床)
1日平均入院患者数	64.6人(平成23年度実績)
1日平均外来患者数	134.6人(平成23年度実績)
職員数	医師4名、看護師32名、医療技術員9名、事務職員5名

○紹介率・逆紹介率の推移

単位：人

区分	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
紹介率	%	16.4	12.6	15.5	19.3	18.4
逆紹介率	%	26.5	26.8	23.0	22.4	26.8
紹介件数	件	418	303	454	555	551
逆紹介件数	件	323	290	371	326	406

○救急患者数の推移

単位：人

区分		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
来院方法	救急車	170	154	192	187	209
	その他	1,066	1,263	1,238	1,323	1,265
	合計	1,236	1,417	1,430	1,510	1,474
来院時間	時間内	93	89	105	87	96
	時間外	1,143	1,328	1,325	1,423	1,378
	合計	1,236	1,417	1,430	1,510	1,474
1日平均患者数		3.4	3.9	3.9	4.1	4.0

○健康診断等受診者数の推移

単位：人

区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
職場・団体検診	209	194	303	271	266
その他健診	102	59	41	63	62
予防接種	900	943	988	970	1,210
合計	1,211	1,196	1,332	1,304	1,538

第5章 事業計画

1 収支計画

市民から信頼される市立病院として、安全で安心できる医療及び質の高い医療を効率的・継続的に提供するために、経営健全化を推進する必要があります。

これまでの決算の推移を基本とし、収益の向上、費用の適正化による収支目標を設定し、計画期間内の収支改善を目指します。

(1) 栗原中央病院

①収益的収入支出

(単位：千円)

区分	平成23年度 (決算)	平成24年度 (計画)	平成25年度 (計画)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)
医業収益	3,653,186	4,069,772	4,093,499	4,213,866	4,275,676
医業外収益	673,411	631,288	591,960	575,881	572,422
特別利益	1,077	0	0	0	0
合計	4,327,674	4,701,060	4,685,459	4,789,747	4,848,098
医業費用	4,247,100	4,638,201	4,430,049	4,499,192	4,526,098
医業外費用	283,723	217,635	241,134	232,996	224,774
特別損失	7,839	1,200	1,200	1,200	1,200
合計	4,538,662	4,857,036	4,672,383	4,733,388	4,752,072
当年度経常損益	▲ 204,226	▲ 154,776	14,276	57,559	97,226
当年度純損益	▲ 210,988	▲ 155,976	13,076	56,359	96,026
(減価償却費を除いた損益)	(84,879)	(213,780)	(403,424)	(443,075)	(482,775)
累積欠損金	▲ 5,228,928	▲ 5,384,904	▲ 5,371,828	▲ 5,315,469	▲ 5,219,443

※平成26年4月から8%、平成27年10月から10%を想定した場合の費用増加見込(平成23年度を基本に算出)

消費税増加見込み	※平成23年度消費税79,300千円	47,580	63,440
----------	--------------------	--------	--------

②資本的収入支出

(単位：千円)

区分	平成23年度 (決算)	平成24年度 (計画)	平成25年度 (計画)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)
資本的収入					
企業債	549,300	78,100	40,000	40,000	40,000
補助金	125,192	46,622	50,617	48,633	49,672
負担金	25,200	28,800	30,600	34,800	37,200
出資金	290,295	262,723	329,401	333,266	338,459
その他	0	0	0	0	0
合計	989,987	416,245	450,618	456,699	465,331
資本的支出					
建設改良費	701,894	88,115	40,000	40,000	40,000
企業債償還金	385,608	398,100	528,996	534,213	542,033
その他	28,200	31,800	33,600	34,800	37,200
合計	1,115,702	518,015	602,596	609,013	619,233

(2) 若柳病院

①収益的収入支出

(単位：千円)

区分	平成23年度 (決算)	平成24年度 (計画)	平成25年度 (計画)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)
医業収益	1,482,983	1,542,475	1,561,714	1,561,714	1,561,714
医業外収益	176,352	180,853	171,247	169,117	168,634
特別利益	1,661	0	0	0	0
合計	1,660,996	1,723,328	1,732,961	1,730,831	1,730,348
医業費用	1,604,925	1,725,245	1,629,777	1,629,920	1,628,511
医業外費用	105,363	97,749	101,788	99,409	96,870
特別損失	5,294	17,336	457	457	457
合計	1,715,582	1,840,330	1,732,022	1,729,786	1,725,838
当年度経常損益	▲ 50,953	▲ 99,666	1,396	1,502	4,967
当年度純損益	▲ 54,586	▲ 117,002	939	1,045	4,510
(減価償却費を除いた損益)	(48,267)	(▲22,904)	(110,617)	(113,266)	(117,722)
累積欠損金	▲ 7,111	▲ 124,113	▲ 123,174	▲ 122,129	▲ 117,619

※平成26年4月から8%、平成27年10月から10%を想定した場合の費用増加見込 (平成23年度を基本に算出)

消費税増加見込み	※平成23年度消費税28,150千円		16,890	22,520
----------	--------------------	--	--------	--------

②資本的収入支出

(単位：千円)

区分	平成23年度 (決算)	平成24年度 (計画)	平成25年度 (計画)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)
資本的収入					
企業債	90,900	119,700	20,000	20,000	20,000
補助金	7,265	0	0	0	0
負担金	0	0	0	0	0
出資金	77,253	85,382	89,949	98,790	98,400
その他	0	0	0	0	0
合計	175,418	205,082	109,949	118,790	118,400
資本的支出					
建設改良費	98,804	128,011	20,000	20,000	20,000
企業債償還金	118,340	123,912	132,271	149,167	147,581
その他	0	0	0	0	0
合計	217,144	251,923	152,271	169,167	167,581

(3) 栗駒病院

①収益的収入支出

(単位：千円)

区分	平成23年度 (決算)	平成24年度 (計画)	平成25年度 (計画)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)
医業収益	819,776	780,134	815,259	815,259	815,259
医業外収益	171,675	173,918	167,677	167,028	167,429
特別利益	10,019	0	0	0	0
合計	1,001,470	954,052	982,936	982,287	982,688
医業費用	913,658	969,513	914,834	909,601	901,987
医業外費用	37,694	34,419	36,415	35,799	35,117
特別損失	19,692	450	67	67	67
合計	971,044	1,004,382	951,316	945,467	937,171
当年度経常損益	40,099	▲ 49,880	31,687	36,887	45,584
当年度純損益	30,426	▲ 50,330	31,620	36,820	45,517
(減価償却費を除いた損益)	(102,573)	(22,570)	(104,944)	(104,911)	(105,994)
累積欠損金	▲ 40,663	▲ 90,993	▲ 59,373	▲ 22,553	22,964
※平成26年4月から8%、平成27年10月から10%を想定した場合の費用増加見込(平成23年度を基本に算出)					
消費税増加見込み	※平成23年度消費税11,840千円			7,100	9,470

②資本的収入支出

(単位：千円)

区分	平成23年度 (決算)	平成24年度 (計画)	平成25年度 (計画)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)
資本的収入					
企業債	9,200	26,900	20,000	20,000	20,000
補助金	2,625	0	0	0	0
負担金	0	0	0	0	0
出資金	22,087	27,375	34,278	26,918	28,508
その他	0	0	0	0	0
合計	33,912	54,275	54,278	46,918	48,508
資本的支出					
建設改良費	11,844	36,985	20,000	20,000	20,000
企業債償還金	44,158	44,750	58,557	43,838	47,019
その他	0	0	0	0	0
合計	56,002	81,735	78,557	63,838	67,019

(4) 病院事業全体

①収益的収入支出

(単位：千円)

区分	平成23年度 (決算)	平成24年度 (計画)	平成25年度 (計画)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)
医業収益	5,955,945	6,392,381	6,470,472	6,590,839	6,652,649
医業外収益	1,021,438	986,059	930,884	912,026	908,485
特別利益	12,757	0	0	0	0
合 計	6,990,140	7,378,440	7,401,356	7,502,865	7,561,134
医業費用	6,765,683	7,332,959	6,974,660	7,038,713	7,056,596
医業外費用	426,780	349,803	379,337	368,204	356,761
特別損失	32,825	18,986	1,724	1,724	1,724
合 計	7,225,288	7,701,748	7,355,721	7,408,641	7,415,081
当年度経常損益	▲ 215,080	▲ 304,322	47,359	95,948	147,777
当年度純損益	▲ 235,148	▲ 323,308	45,635	94,224	146,053
(減価償却費を除いた損益)	(235,719)	(213,446)	(618,985)	(661,252)	(706,491)
累積欠損金	▲ 5,276,702	▲ 5,600,010	▲ 5,554,375	▲ 5,460,151	▲ 5,314,098
※平成26年4月から8%、平成27年10月から10%を想定した場合の費用増加見込 (平成23年度を基本に算出)					
消費税増加見込み	※平成23年度消費税119,290千円			71,570	95,430

②資本的収入支出

(単位：千円)

区分	平成23年度 (決算)	平成24年度 (計画)	平成25年度 (計画)	平成26年度 (計画)	平成27年度 (計画)
資本的収入					
企業債	649,400	224,700	80,000	80,000	80,000
補助金	135,082	46,622	50,617	48,633	49,672
負担金	25,200	28,800	30,600	34,800	37,200
出資金	389,635	375,480	453,628	458,974	465,367
その他	0	0	0	0	0
合 計	1,199,317	675,602	614,845	622,407	632,239
資本的支出					
建設改良費	812,542	253,111	80,000	80,000	80,000
企業債償還金	548,106	566,762	719,824	727,218	736,633
その他	28,200	31,800	33,600	34,800	37,200
合 計	1,388,848	851,673	833,424	842,018	853,833

※一般会計負担については、毎年度、総務省の通知「地方公営企業繰出基準」に基づき算出することとしています。計画では一定額を計上しています。

2 経営指標

(1) 栗原中央病院

経営指標		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
病院機能評価		Ver5.0 継続	⇒	Ver6.0 認定	⇒	⇒
1日平均入院患者数		200.4人	213.9人	225人	235人	240人
1日平均外来患者数		419.0人	392.0人	450人	450人	450人
職員給与比率		55.2%	49.8%	50.4%	50.5%	50.1%
医業収支比率		86.0%	87.7%	92.4%	93.4%	94.5%
病床利用率		66.8%	71.3%	75.0%	78.3%	80.0%
内 訳	一般病床	66.7%	71.5%	74.2%	78.1%	80.0%
	療養病床	67.7%	70.0%	80.0%	80.0%	80.0%
平均入院単価		33,661円	35,419円	34,280円	34,280円	34,280円
内 訳	一般病床	36,543円	38,329円	37,455円	37,455円	37,455円
	療養病床	15,632円	16,100円	15,632円	15,632円	15,632円
平均外来単価		8,280円	9,838円	8,280円	8,280円	8,280円
経常収支比率		95.4%	96.8%	100.3%	101.1%	102.2%

※本表における職員給与比率は、「地方公営企業決算状況調査」に準じ、退職給与金等は含まれていない。

(2) 若柳病院

経営指標		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1日平均入院患者数		99.1人	99.9人	102.2人	102.2人	102.2人
1日平均外来患者数		203.7人	208.0人	218.2人	218.2人	218.2人
職員給与比率		55.9%	55.2%	52.0%	52.0%	52.0%
医業収支比率		92.4%	89.4%	95.8%	95.8%	95.9%
病床利用率		82.6%	83.3%	85.2%	85.2%	85.2%
内 訳	一般病床	79.9%	81.7%	83.3%	83.3%	83.3%
	療養病床	90.6%	88.0%	90.7%	90.7%	90.7%
平均入院単価		25,412円	26,109円	25,525円	25,525円	25,525円
内 訳	一般病床	29,140円	29,784円	29,140円	29,140円	29,140円
	療養病床	15,557円	15,878円	15,557円	15,557円	15,557円
平均外来単価		8,573円	8,618円	8,573円	8,573円	8,573円
経常収支比率		96.9%	94.5%	100.1%	100.1%	100.3%

※本表における職員給与比率は、「地方公営企業決算状況調査」に準じ、退職給与金等は含まれていない。

(3) 栗駒病院

経営指標	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
1日平均入院患者数	64.6人	59.4人	64.6人	64.6人	64.6人	
1日平均外来患者数	134.6人	121.5人	134.6人	134.6人	134.6人	
職員給与比率	61.2%	64.4%	61.8%	61.8%	61.8%	
医業収支比率	89.7%	80.5%	89.1%	89.6%	90.4%	
病床利用率	86.2%	79.2%	86.1%	86.1%	86.1%	
内 訳	一般病床	88.5%	79.1%	88.4%	88.4%	88.4%
	療養病床	82.7%	79.3%	82.7%	82.7%	82.7%
平均入院単価	21,180円	21,624円	21,179円	21,179円	21,179円	
内 訳	一般病床	24,955円	26,557円	24,955円	24,955円	24,955円
	療養病床	15,119円	14,245円	15,119円	15,119円	15,119円
平均外来単価	6,175円	6,689円	6,175円	6,175円	6,175円	
経常収支比率	103.2%	95.0%	103.3%	103.9%	104.9%	

※本表における職員給与比率は、「地方公営企業決算状況調査」に準じ、退職給与金等は含まれていない。

3 目標達成に向けた具体的な取り組み

(1) 栗原中央病院

栗原中央病院は市民の健康といのちを守ることを第一の目標において、この目標の達成と経営健全化を図るために、今後4年間の目標を設定しています。

①病床利用率の増加

過去5年間の病床利用率は年間平均で70%を下回る水準であり、経営健全化に向けて、病床利用率が70%を超えることを第1の改善目標とします。

地域の要請に合わせた診療科の充実、教育目的や体調管理を目的とした短期的な計画入院の活用、慢性期疾患の管理やリハビリのための病床活用などを基本に病床利用の拡大を図ります。

②急性期疾患治療の支援

疾患の急性期過程を含めた診療支援を強化します。その一つとして、回復期リハビリテーション病棟を開設し、病床利用率の向上と医業収益の増加を図ります。

③医療スタッフの招へい

診療科の充実やリハビリテーション病棟の拡充に際しては医師の増員に加えて作業療法士、理学療法士、言語聴覚士などのリハビリテーションを担う職員の充実に図ります。

看護師は定数を確保できるように病院としての魅力を高めます。このため勤務条件の改善に加えて、教育研修や専門資格の習得などの機会を多くして職場の魅力をつくります。

臨床研修指定病院として、初期研修医の確保に加えて後期研修医の確保も目標の一つとします。後期研修医は働き手として臨床の力を引き上げるだけでなく、病院の教育研修を活発化させ、より魅力ある職場にする原動力です。

④病院機能の充実

現在、平成25年の病院機能評価Ver 6.0の認証へ向けての作業を進めています。次世代に向けた、病院の運営や機能の刷新を全病院体制で行います。

医療安全管理室に加えて平成24年度内に感染管理室を設置します。

これらは診療の効率、安全、感染対策により経営の妨げとなる諸問題を未然に回避することで健全化に関与します。

また、専門診療科目の充実に図り、新患率15%以上を目標とします。

⑤病病連携、病診連携の強化

脳血管疾患や癌の化学療法・放射線療法、産科など現状で対処できないニーズに関しては他の医療機関と連携して進めます。緩和ケアは今後対応するように準備を進めています。

地域や在宅の患者を受け入れる、あるいは退院後の医療、介護への受け渡しに関して連携を強化できるように連携室・医事課の機能を向上させることでよりスムーズな病床運用を図ります。

(2) 若柳病院

①地域医療を担う常勤医師の招へい

内科、外科の常勤医師を招へいし、「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、医師充足率を満たすよう努めてまいります。

②在宅診療の充実

地域の過疎化、高齢化が急激に進行することが予測され、慢性期医療への依存度が高い患者が増加していくことから、在宅医療が維持できるリ・コンディショニング（後遺障害を有する患者が、自宅・施設等で過ごせるよう再調整すること。）が必要であり、併せて病病連携、病診連携のみではなく、介護事業所や老健施設との連携に努めてまいります。

平成20年4月に、居宅介護支援事業所（在宅支援訪問看護室）を設置しており、地域の医療機関との情報交換、連携のもとに在宅医療支援の充実を図ります。

③材料費等の削減

平成22年8月から後発医薬品使用体制加算の施設基準を取得したことなど、今後も効率的な病院運営の分析を行います。

(3) 栗駒病院

①病院機能の充実

地域の医療機関では病床数が減少している状況であり、慢性期の基幹病院で入院機能を有する栗駒病院の果たす役割は大きくなっており、各医療機関や保健福祉施設等との連携強化を図りながら病院機能の充実を図って参ります。

②亜急性期病床の有効活用

在宅復帰支援のための施設基準である亜急性期病床については、患者の療養状況に合わせて今後も有効に活用して参ります。

(4) 病院事業全体

① 経営全般

○常勤医師等の招へい

- ・今後も東北大学、宮城県との関係を維持しながら、常勤医師招へいに努めてまいります。
- ・医学生修学一時金や看護学生修学資金貸付制度の活用などにより、将来の医師等の招へいにつながる対策に取り組んでまいります。

○社会情勢への対応

- ・今後の栗原地域の医療を維持するため、地域、社会の変動に対応した、経営的な視点に立った組織体制の構築を図ります。

○機能連携

- ・栗原市医師会及び近隣地域の医療機関の協力により、病病連携、病診連携を強化し、紹介率、逆紹介率の向上を図ります。

○専門医の派遣

- ・栗原中央病院から専門医の派遣など、病院事業全体として連携を構築してまいります。

○病院事業一体化に向けた方策

- ・各分野における研修会を3病院合同で実施することにより、業務の平準化を推進します。
- ・各病院間の人事交流を活発化させ、職員に病院事業の一体化を醸成します。

○安全な医療の提供

- ・リスクマネジメントの研究や医療安全管理体制を強化し、医療事故の防止に努めるとともに、院内の危機管理の徹底を図ります。

○各種委員会及び研修・研究制度の充実

- ・各種委員会の活性化を図ります。
- ・病院事業全体の合同研修など、各種研修を積極的に推進し、職員一人一人のスキルの向上を図ります。

○患者サービスの向上

- ・「患者満足度調査」を実施し、改善できるものについては、積極的に取り組むとともに、接遇研修の充実を図ります。

○職員の意識改革

- ・あらゆる研修機会を通じて、栗原地域の医療を担っているという意識の高揚を図ります。
- ・職員の経営参画意識を醸成するため、職員提案による業務及び経営改善の取り組みを今後も継続して実施します。
- ・職員に経営状況を周知し、コスト意識の浸透を図ります。
- ・病院毎に、毎年度基本方針及び事業計画を策定し、各部門の組織目標を設定

したうえ、目標達成に向けた取り組みを今後も継続して実施します。

○診療の効率化

- ・診療の効率化を図るため、市立病院と診療所の患者情報のネットワーク化を検討します。

○情報の発信

- ・栗原の医療を維持、継続するため、市民に対し積極的に情報を発信し、地域医療への理解を深めながら、市民の参加意識を醸成します。

② 経費削減・抑制対策

○材料費等の削減

- ・今後も継続して、在庫管理の適正化を図ります。
- ・後発医薬品について、有効性や安全性、安定供給、コスト及び実績を評価のうえ選定し、積極的に導入します。
- ・医薬品や診療材料の市立3病院一括購入をさらに推進し、購入単価の引き下げに取り組みます。
- ・今後も継続して、ベンチマークによる診療材料費の削減を図ります。

○業務委託の見直し

- ・今後も委託している業務について見直しを行い、削減を図ります。

○賃借料の見直し

- ・今後も賃借料の支出内容について見直しを行い、削減を図ります。

○その他の経費削減対策

- ・今後も消耗品費、燃料費、光熱水費の削減に取り組みます。

③ 収入増加・確保対策

○経営分析及び改善策の実施

- ・診療報酬制度に的確に対応するため、多角的な経営分析を行うとともに、改善策の実施に向けた取り組みを行います。

○健診業務の拡充

- ・人間ドックや各種健診、その他の検診等の拡充に努め、効率的な収入確保を図ります。

○未収金徴収対策

- ・通院患者への催告はもちろん、訪問による催告を増やし、入院時の高額療養費の助成制度等の制度説明や、医療費支払い相談、年金支払い月の訪問催告等により収納率の向上を目指します。

参考：平成23年度収納実績：現年度分97.80%、過年度分44.33%

平成27年度収納目標：現年度分99%以上、過年度分54%以上

④ 将来的な検討事項

○消費税増税や町村合併の経過措置による普通交付税の減額を見据えた、経営基盤安定のための対策を検討します。

4 定員管理と給与の適正化

(1) 定員管理

定員管理については、病院の診療機能に併せて適正な配置を実施していますが、新たな診療機能の充実のための配置については、将来的な診療の方向性を考慮することとし、当面は、現行体制での配置とします。

(2) 給与の適正化

国における公務員制度改革の動向と市長部局との整合性を図り、地方公営企業としての経営原則に基づき対応していきます。

第6章 再編・ネットワーク化

1 第6次宮城県地域医療計画策定による再編

第6次宮城県地域医療計画では、人口規模や患者の流入・流出率など国の基準に沿って2次医療圏が見直しされており、大崎医療圏と栗原医療圏を合併する再編案が検討されています。

栗原市では、これまでも市立病院、市立診療所のほか医師会とも連携し、病院の機能分化、病病・病診連携を図ってきており、再編された場合、医療資源が基幹病院に集中されることが懸念されます。

これまで以上に病病・病診連携を強化し、地域住民に安全・安心な医療を提供するため、栗原地域の急性期医療を担う、中核病院である栗原中央病院の診療体制を強化し、3病院の医療スタッフの連携や適正配置を行うことが必要と考えます。

2 医療情報共有システムの構築

患者情報を共有化することは、検査などの診療重複を防ぎ、経済的にも肉体的にも患者負担を軽減することが可能となります。さらに、東日本大震災により、患者情報を遠隔保管することの有用性が証明されました。

県では「みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会」が設立され、今後全県域での医療情報共有システムの構築が期待されます。

栗原市病院事業においても、円滑な連携を図るため、医療情報共有システムの構築を推進してまいります。

第7章 経営形態の継続

第一次経営健全化計画に基づき、平成20年4月に地方公営企業法全部適用に移行し、病院事業管理者を設置し、医師招へいを始め医療スタッフの確保を中心とした事業を展開してまいりました。

この取り組みにより、3病院全体の経常収支比率は計画初年度（平成19年度）に比べ、平成23年度は6.2%上昇する結果となりました。

栗原医療圏は面積が県内一広く、また中山間地域を有し、過疎化・少子高齢化が加速している現状にあります。こうした地理的条件や交通事情等を含む社会的条件などを鑑み、当面は現行の医療体制を維持してまいります。

第8章 計画目標の点検・評価・公表

1 点検・評価

経営健全化計画の点検・評価については、有識者等で構成する「市立病院経営評価委員会」で、事業全体の運営状況を毎年度検証することといたします。

2 公表

経営健全化計画の実施状況については、経営評価委員会の検証を経て、栗原市病院事業のホームページ等に内容を掲載し、公表することとします。

資料編

○一般会計負担の考え方

1 一般会計負担の基本的な考え方

公営企業である病院事業への一般会計からの負担は、地方公営企業法第17条の2（経費の負担の原則）第1項で「その性質上当該地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費」、「当該地方公営企業の性質上能率的な経営を行ってもなお、その経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費」と規定されており、一般会計が出資、長期の貸付け、負担金の支出その他の方法により負担するものと定められています。

公営の病院が実施する事業の中には、小児医療、救急医療、へき地医療などの不採算部門が含まれ、これらの医療を継続的に提供するには、経営基盤強化のため一般会計からの負担が必要です。この負担の基準については、毎年度、総務省の通知「地方公営企業繰出金について」に示されており、具体的な内容については次の表のとおりです。

なお、実際の病院事業への一般会計繰出金については、上記基準に基づき、財政当局との協議により決定していますが、本市においては、総務省の考え方に基づく繰出金（繰出基準分）と、財政収支バランスを図るための繰出金（政策医療分）を設定しています。

2 市立病院に係る一般会計負担の考え方

		項目	趣旨	基準	市立病院に係る 一般会計負担の考え方
収益勘定繰入	医業収益	負担金	救急医療の確保に要する経費	ア 救急病院における医師等の待機及び空床の確保等救急医療の確保に必要な経費に相当する額	算出＝費用－収益 ●費用＝救急用ベット確保分、人件費、診療材料費、旅費交通費、光熱水費、燃料費、委託料 ○収益＝入院収入、外来収入 【災害】 栗原中央病院が災害拠点病院の指定を受けている
				イ 災害拠点病院が災害時における救急医療のために行う施設の整備に要する経費に相当する額	
ウ 災害拠点病院が災害時における救急医療のために行う診療用具、診療材料及び薬品等の備蓄に要する経費に相当する額					
			保健衛生行政として行われる事務に要する経費について、一般会計が負担するための経費	集団検診、医療相談等に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	算出＝費用－収益 ●費用＝胃カメラ等診断検査経費、大腸検診経費、インフルエンザ予防注射経費 ○収益＝検診収入、予防接種

医業外収益	補助金	医師及び看護師等の研究研修に要する経費	医師及び看護師等の研究研修に要する経費の一部について繰り出すための経費	医師及び看護師等の研究研修に要する経費の2分の1	医師研究手当、旅費交通費、研究研修費の2分の1
		病院事業会計に係る共済追加費用の負担に要する経費	病院事業会計に係る共済追加費用の負担に要する経費の一部について繰り出すための経費	当該年度の4月1日現在の職員数が地方公務員等共済組合法の長期給付等に関する施行法の施行の日における職員数に比して著しく増加している病院事業会計に係る共済追加費用の負担額の一部	基準に同じ
		地方公営企業職員に係る基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費	地方公営企業の経営健全化に資するため、地方公営企業職員に係る基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費の全部又は一部について繰り出すための経費	経常収支の不足額を生じている病院事業の職員に係る基礎年金拠出金に係る公的負担額（前々年度における経常収支の不足額を限度とする。）	基準に同じ
		地方公営企業職員に係る児童手当に要する経費	地方公営企業職員に係る児童手当法に規定する児童手当の給付に要する経費の一部について繰り出すための経費	ア 3歳に満たない児童に係る給付に要する経費（ウに掲げる経費を除く。）の15分の8 イ 3歳以上中学生修了前の児童に係る給付に要する経費（ウに掲げる経費を除く。） ウ 児童手当法附則第2条に規定する給付に要する経費	基準に同じ
	負担金	病院の建設改良に要する経費（利息）	病院の建設改良費について一般会計が負担するための経費	企業債に係る元利償還金のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額（利息分） 〔元利償還金の1/2を基準とする（平成14年度までに着手した事業については2/3を基準とする）〕	基準に同じ
		不採算地区病院の運営に要する経費	不採算地区病院の運営に要する経費について、一般会計が負担するための経費	不採算地区病院の運営に要する経費のうち、その収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	算出＝費用－収益 ●費用＝非常勤医師人件費、旅費交通費、在宅医療診療経費 ○収益＝診療収入

		高度医療に要する経費	高度な医療で採算をとることが困難であっても、公立病院として行わざるをえないものの実施に要する経費について、一般会計が負担するための経費	高度な医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額	算出＝費用－収益 ●費用＝人件費、診療材料費、光熱水費、燃料費、修繕費、医療機器リース料、高度医療機器保守委託料 ○収益＝検査収入
		その他		院内保育の運営に要する経費	算出＝費用－収益
収益勘定繰入合計（ア）					

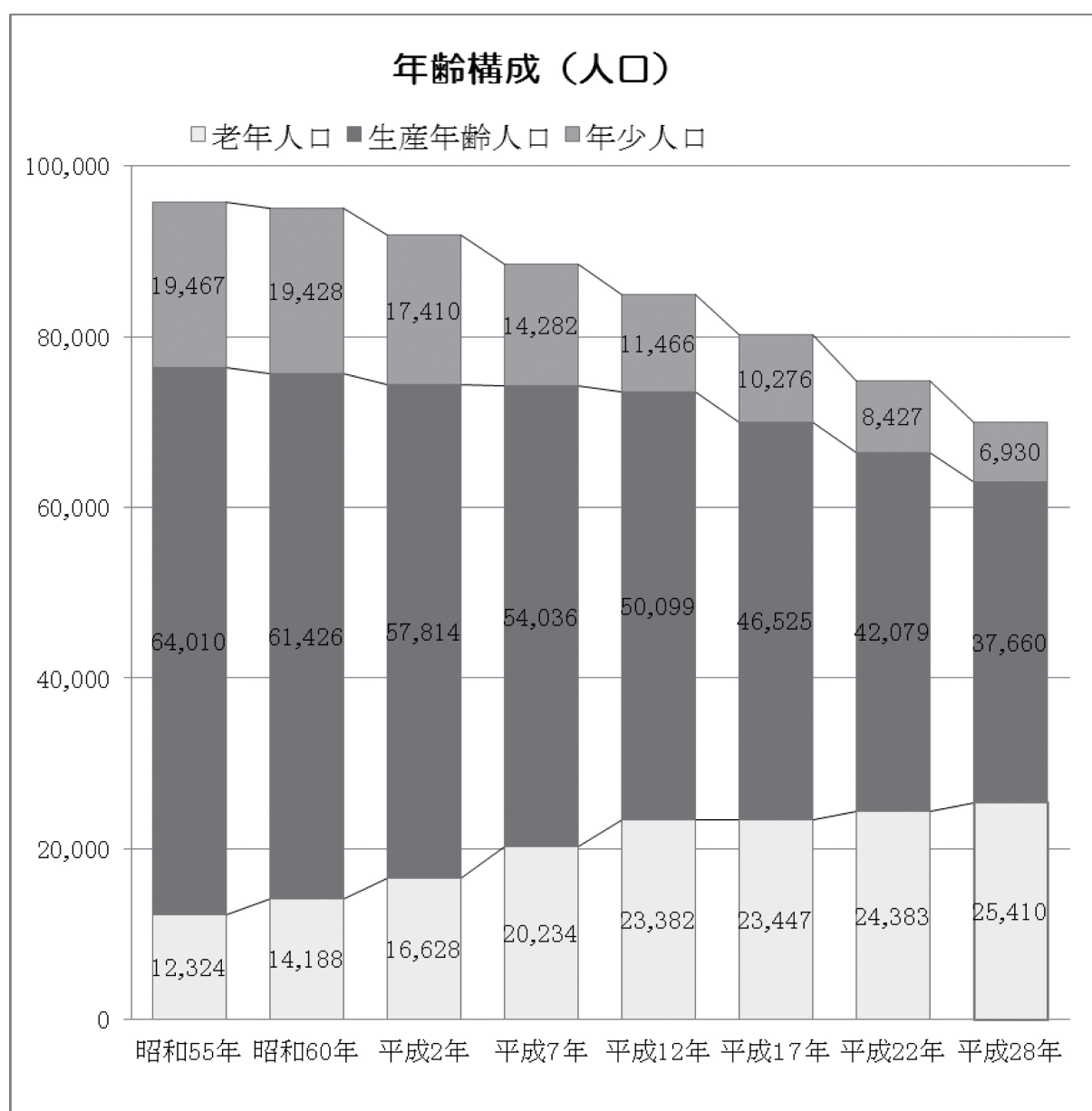
		項目	趣旨	基準	市立病院に係る一般会計負担の考え方
資本勘定繰入	出資金	病院の建設改良に要する経費（元金）	病院の建設改良費について一般会計が負担するための経費	企業債に係る元利償還金のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額（元金分） 〔元利償還金の1/2を基準とする（平成14年度までに着手した事業については2/3を基準とする）〕	基準に同じ
		病院の建設改良に要する経費（元金）	病院の建設改良費について一般会計が負担するための経費	病院の建設改良費のうち、その経営に伴う収入をもって充てることができないと認められるものに相当する額 〔建設改良費の1/2を基準とする（平成14年度までに着手した事業については2/3を基準とする）〕	基準に同じ
		その他	医学生修学一時金・看護学生修学資金の貸付金		貸付金に要する経費
資本勘定繰入合計（イ）					
繰入合計（ア）＋（イ）					

○人口等の推移

栗原市総合計画では、栗原市の人口は平成28年の推計人口（約68,800人）に対し、計画人口を70,000人と設定しております。

平成28年の計画人口比は、年少人口（15歳未満）が9.9%、生産年齢人口（15～64歳）が53.8%、老年人口（65歳以上）が36.3%と推測され、過疎化に加え本格的な少子・高齢化はさらに加速することが予想されております。

◆栗原市（栗原医療圏）の年齢構成（人口、割合）の推移								推計
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成28年
人口	95,801	95,042	91,852	88,552	84,947	80,248	74,932	70,000
年平均伸び率		-0.2%	-0.7%	-0.7%	-0.8%	-1.1%	-1.3%	-1.1%
世帯数	23,425	23,415	23,262	23,563	23,864	23,737	23,407	23,100
1世帯の平均世帯人員	4.09	4.06	3.95	3.76	3.56	3.38	3.20	3.03



※栗原市総合計画より一部抜粋。平成22年以前は国勢調査のデータによる。なお、平成28年は推計。

○栗原市の疾病構造

国民健康保険データに後期高齢者医療保険データを加えた市民の疾病構造。

①入院

疾病分類	平成21年5月		平成23年5月		23-21比較	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
01 感染症及び寄生虫	16	1.5%	15	1.4%	▲ 1	▲ 0.1%
02 新生物	134	12.2%	123	11.2%	▲ 11	▲ 1.0%
うち悪性新生物	119	10.8%	113	10.3%	▲ 6	▲ 0.5%
03 血液及び造血器の疾患、免疫機構の障害	4	0.4%	10	0.9%	▲ 6	▲ 0.5%
04 内分泌、栄養及び代謝疾患	57	5.2%	29	2.6%	▲ 28	▲ 2.6%
うち糖尿病	39	3.6%	19	1.7%	▲ 20	▲ 1.9%
05 精神及び行動の障害	153	13.9%	170	15.5%	▲ 17	▲ 1.6%
06 神経系の疾患	52	4.7%	55	5.0%	▲ 3	▲ 0.3%
07 眼及び付属器の疾患	14	1.3%	26	2.4%	▲ 12	▲ 1.1%
08 耳及び乳様突起の疾患	6	0.5%	2	0.2%	▲ 4	▲ 0.3%
09 循環器系の疾患	264	24.0%	211	19.3%	▲ 53	▲ 4.7%
うち心疾患	87	7.9%	85	7.8%	▲ 2	▲ 0.1%
うち脳血管疾患	103	9.4%	83	7.6%	▲ 20	▲ 1.8%
10 呼吸器系の疾患	102	9.3%	90	8.2%	▲ 12	▲ 1.1%
11 消化器系の疾患	78	7.1%	90	8.2%	▲ 12	▲ 1.1%
12 皮膚及び皮下組織の疾患	2	0.2%	9	0.8%	▲ 7	▲ 0.6%
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	67	6.1%	71	6.5%	▲ 4	▲ 0.4%
14 腎尿路生殖器系の疾患	52	4.7%	71	6.5%	▲ 19	▲ 1.8%
15 妊娠、分娩及び産じょく	5	0.5%	9	0.8%	▲ 4	▲ 0.3%
16 周産期に発生した病態	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
17 先天奇形、変形及び染色体異常	1	0.1%	3	0.3%	▲ 2	▲ 0.2%
18 症状、兆候、異常臨床所見等で他に分類されないもの	25	2.3%	14	1.3%	▲ 11	▲ 1.0%
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	66	6.0%	98	8.9%	▲ 32	▲ 2.9%
合計	1,098	100%	1,096	100%	▲ 2	0.0%

②外来

疾病分類	平成21年5月		平成23年5月		23-21比較	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
01 感染症及び寄生虫	707	1.8%	628	1.6%	▲ 79	▲ 0.2%
02 新生物	1,432	3.7%	1,346	3.5%	▲ 86	▲ 0.2%
うち悪性新生物	1,190	3.1%	1,065	2.8%	▲ 125	▲ 0.3%
03 血液及び造血器の疾患、免疫機構の障害	107	0.3%	97	0.3%	▲ 10	0.0%
04 内分泌、栄養及び代謝疾患	3,500	9.1%	4,063	10.6%	▲ 563	▲ 1.5%
うち糖尿病	1,938	5.1%	2,136	5.6%	▲ 198	▲ 0.5%
05 精神及び行動の障害	1,228	3.2%	1,166	3.0%	▲ 62	▲ 0.2%
06 神経系の疾患	853	2.2%	959	2.5%	▲ 106	▲ 0.3%
07 眼及び付属器の疾患	3,047	7.9%	2,981	7.8%	▲ 66	▲ 0.1%
08 耳及び乳様突起の疾患	378	1.0%	319	0.8%	▲ 59	▲ 0.2%
09 循環器系の疾患	11,420	29.8%	11,782	30.7%	▲ 362	▲ 0.9%
うち心疾患	1,472	3.8%	1,380	3.6%	▲ 92	▲ 0.2%
うち脳血管疾患	1,086	2.8%	1,019	2.7%	▲ 67	▲ 0.1%
10 呼吸器系の疾患	1,873	4.9%	1,759	4.6%	▲ 114	▲ 0.3%
11 消化器系の疾患	5,793	15.1%	5,642	14.7%	▲ 151	▲ 0.4%
12 皮膚及び皮下組織の疾患	1,245	3.2%	1,072	2.8%	▲ 173	▲ 0.4%
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	4,357	11.4%	4,267	11.1%	▲ 90	▲ 0.3%
14 腎尿路生殖器系の疾患	1,138	3.0%	1,037	2.7%	▲ 101	▲ 0.3%
15 妊娠、分娩及び産じょく	12	0.0%	26	0.1%	▲ 14	▲ 0.1%
16 周産期に発生した病態	7	0.0%	3	0.0%	▲ 4	0.0%
17 先天奇形、変形及び染色体異常	30	0.1%	27	0.1%	▲ 3	0.0%
18 症状、兆候、異常臨床所見等で他に分類されないもの	457	1.2%	371	1.0%	▲ 86	▲ 0.2%
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	754	2.0%	868	2.3%	▲ 114	▲ 0.3%
合計	38,338	100%	38,413	100%	▲ 75	0.0%

※端数整理により合計が合わない場合があります。

○市立病院及び診療所の概要（平成24年4月1日現在）

1 市立病院

※患者数については、平成23年度実績

(1) 栗原中央病院（宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1）

◇現施設の建設年月 平成14年7月

◇診療科目

内科・外科・整形外科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・小児科・皮膚科・麻酔科・精神科・泌尿器科・放射線科・リハビリテーション科・病理診断科

◇指定医療機関

救急指定病院、災害拠点病院、保険医療機関、労災保険指定医療機関、生活保護指定医療機関、感染症指定医療機関、自立支援医療機関（更生医療）、自立支援医療機関（精神通院医療）、生活習慣病予防検診指定医療機関

◇敷地面積 40,000㎡（医師宿舎含む） ◇総床面積 21,542.96㎡

◇建物構造 病院本体：鉄筋コンクリート造 [免震構造] 地上5階 塔屋1階

◇病床数 300床（一般病床 260床、療養病床 40床）

◇職員数 医師28名、看護師161名、医療技術員38名、事務職員13名

◇患者数 【1日平均入院患者数】200.4人 【1日平均外来患者数】419.0人

(2) 若柳病院（宮城県栗原市若柳字川北原畑23番地4）

◇現施設の建設年月 平成17年3月

◇診療科目 内科・外科・皮膚科・整形外科・形成外科・リハビリテーション科

◇敷地面積 25,000.13㎡ ◇総床面積 8,581.10㎡

◇建物構造 鉄筋コンクリート造 地上3階

◇病床数 120床（一般病床90床、療養病床30床）

◇職員数 医師5名、看護師68名、医療技術員18名、事務職員6名

◇患者数 【1日平均入院患者数】99.1人 【1日平均外来患者数】203.7人

(3) 栗駒病院（宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎松木田10番地1）

◇現施設の建設年月 平成21年4月

◇診療科目 内科・外科・整形外科・泌尿器科・眼科

◇敷地面積 11,456.22㎡ ◇総床面積 4,993.84㎡

◇建物構造 鉄筋コンクリート造 地上3階 塔屋1階

◇病床数 75床（一般病床45床、療養病床30床）

◇職員数 医師4名、看護師32名、医療技術員9名、事務職員5名

◇患者数 【1日平均入院患者数】64.6人 【1日平均外来患者数】134.6人

2 市立診療所

※患者数については、平成23年度実績

(1) 高清水診療所（宮城県栗原市高清水桜丁7番地）

- ◇現施設の建設年月 平成16年4月・・・（診療所の開設は、昭和25年10月）
- ◇診療科目 内科・呼吸器科・外科 ◇敷地面積 2,415.79 m²
- ◇総床面積 439.72 m² ◇建物構造 木造平屋建 ◇病床 無
- ◇職員数 医師1名、看護師3名、事務職員1名
- ◇患者数 【1日平均外来患者数】 56.0人

(2) 瀬峰診療所（宮城県栗原市瀬峰長者原37番地2）

- ◇現施設の建設年月 平成15年4月・・・（診療所の開設は、昭和25年3月）
- ◇診療科目 内科 ◇敷地面積 2685.99 m²
- ◇総床面積 431.09 m² ◇建物構造 木造平屋建 ◇病床 無
- ◇職員数 医師1名、看護師3名、事務職員1名
- ◇患者数 【1日平均外来患者数】 64.8人

(3) 鶯沢診療所（宮城県栗原市鶯沢南郷広面38番地1）

- ◇現施設の建設年月 平成19年4月・・・（診療所の開設は、昭和21年4月）
- ◇診療科目 内科、歯科（委託） ◇敷地面積 1879.5 m²
- ◇総床面積 375.96 m² ◇建物構造 木造平屋建 ◇病床 無
- ◇職員数 医師2名【委託歯科医1名含む】、看護師2名、事務職員1名
- ◇患者数 【1日平均外来患者数】 48.5人

(4) 花山診療所（宮城県栗原市花山字本沢久保36番地9）

- ◇現施設の建設年月 昭和48年3月・・・（診療所の開設は、昭和25年5月）
- ◇診療科目 内科、眼科 ◇敷地面積 1,439 m²
- ◇総床面積 491 m² ◇建物構造 鉄筋コンクリート2階建 ◇病床 無
- ◇職員数 医師2名【臨時眼科専門医1名含む】、看護師2名、事務職員1名
- ◇患者数 【1日平均外来患者数】 26.7人

(5) 文字診療所（宮城県栗原市栗駒文字葛峰前12番地）

昭和31年4月に栗駒病院と合併し、栗駒病院から週1回医師派遣で開所。

- ◇診療科目 内科（毎週火曜日 午後のみ開所）
- ◇建物構造 木造平屋建 ◇病床 無
- ◇職員数 【栗駒病院から派遣】
- ◇患者数 【1日平均外来患者数】 6.9人

○用 語

1 基幹型臨床研修指定病院

他の病院又は診療所と共同して臨床研修を行う病院であって、当該臨床研修の管理を行う病院で厚生労働省が指定します。この指定により、臨床研修医の年間を通じての受入が可能となります。

2 災害拠点病院

地震・津波・台風・噴火等の災害発生時に災害医療を行う医療機関を支援する病院のことで、各都道府県の二次医療圏ごとに原則 1 カ所以上整備されています。

3 病院機能評価

「公益財団法人日本医療機能評価機構」が医療機関の第三者評価を行っています。病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況の評価を行っています。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られ効果があります。

4 DPC対象病院

従来診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた一日当たりの診断群分類点数をもとに医療費を算定する定額払い方式です。

5 DMAT

災害急性期に活動できる機動性を持ち、トレーニングの受けた医療チーム。

6 緩和ケア

生命（人生）を脅かす疾患による問題に直面している患者およびその家族の、QOL（人生の質、生活の質）を改善するアプローチで、苦しみを予防したり和らげたりすることでなされるものであり、そのために痛みその他の身体的問題、心理社会的問題、宗教的、哲学的なところや精神的な問題を早期に発見し、的確な評価と治療を行うという方法がとられます。

7 後発医薬品（別名：ジェネリック医薬品）

特許が切れた医薬品を、他の製薬会社が製造、或いは供給する医薬品である。

8 紹介率と逆紹介率

紹介率とは、当院の患者さんのうち、地域の先生に紹介されて来院した人の割合で、逆紹介率とは、その逆で当院の患者さんが、症状が安定したため、地域の医療機関へ紹介した割合です。

9 経常収支比率

医療活動に、医業外活動も加えた経営状況を示す指標で、比率が大きい程、経営状態が良好であることを示しています。次により算出します。

$$\frac{(\text{医業収益} + \text{医業外収益}) \times 100}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}} \quad (\%)$$

10 医業収支比率

病院本来の医療活動による経営状態を示す指標で、比率が大きい程、経営状態が良好であることを示しています。次により算出します。

$$\frac{\text{医業収益} \times 100}{\text{医業費用}} \quad (\%)$$

11 職員給与比率

人件費が医業収益の何%にあたるかを表す指標です。病院における人件費は、その占める割合が最も大きい費用科目です。次により算出します。

$$\frac{\text{給与費} \times 100}{\text{医業収益}} \quad (\%)$$

12 病床利用率

病床利用率は許可病床数に対する「ベッドの埋まり率」を表すもので、その率の高い状態が良いとされます。

$$\frac{1 \text{ 日平均入院患者数} \times 100}{\text{許可病床数}} \quad (\%)$$

13 1日平均入院患者数

$$\frac{\text{在院患者延数}}{\text{年間日数 (365日または366日)}} \quad (\text{人})$$

14 1日平均外来患者数

$$\frac{\text{外来患者延数}}{\text{外来診療日数}} \quad (\text{人})$$

栗原市病院事業 第二次経営健全化計画

平成25年1月

【編集・発行】栗原市医療局 医療管理課

〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1

Tel 0228-21-5631 Fax 0228-21-5632

ホームページ <http://www.kam.or.jp/>

メールアドレス medical@kuriharacity.jp